

第4学年「国語」学習指導案

授業者 小野澤由美子

2月16日(木) 3階B室 10:00~10:40 話し合い 10:55~11:45

1 単元名 伝え合って考えよう 『ごんぎつね』

2 単元について

単元目標	○問いに対する自分の考えを、わかるように伝える。 ○話し合うことを通して、読後感の変化や深まりに気づく。
------	---

本クラスは、4月入学2名、9月入学4名、1月入学1名、7名の帰国児童教育学級である。アメリカ、シンガポール、中国、フランス、ブラジルから帰国し、話す外国語は英語5名、仏語1名。いずれも現地校に通い、3年から6年間の海外生活を経験している。現地ですぐ言葉の壁にぶつかり、苦労してその国の言葉を獲得し現地校で学習してきたが、帰国に際し、今度は日本語の壁に挑んでいる。どの子ども、家庭では日本語で会話していたこともあり、単語が思い浮かばず、英語日本語交じりの会話になることはよくあるが、日常会話には困らない。しかし、わからない学習用語も多く、読解をし、思考するための日本語を身に着けていく必要がある。これまで教科書教材を読み、言葉の意味はもちろん、物語文では叙述から心情を読み取ったり、説明文では、段落ごとの要点をつかみ、筋道を追って読む学習を続けてきた。また、詩の音読やことわざ調べなどことばを広げるための学習をし、自分の思いや考えを日本語で表す機会を多くとってきた。

今回は、日本独特の文化を背景にもつ「ごんぎつね」を、語句の意味を確かめ、自分で問いを作り、自分の考えをもち、話し合いながら読み進める。学習を通して、自分の読みの変化に気づかせたい。「伝え合って考えよう」という単元を設定し、自分の考えをていねいに伝え、その考えを学習材にしてみんなで話し合うことを繰り返す、「聴いて考える」学習をしたいと考えている。

3 学習指導計画(9時間目/全10時間)

第一次 語句の意味を確かめ、情景のイメージを共有する

- (1) 全文を読み、読後感を交流する。 (1時間)
- (2) 語句の意味を調べ、文脈の中での意味をとらえながら読む。 (2時間)

第二次 問いを作り、その考えに対する話し合いを通して、読後感の変化を確かめる。

- (1) 地の文や会話から人物像を表す言葉をみつけ、どんな人物かを考える。 (2時間)
- (2) 問いを作り、その考えについて話し合う。 (3時間)
- (3) 読後感について話し合い、その変化をまとめる。 (本時1/2時間)

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

読み取ったことをもとに、読後感を振り返り、その変化や深まりに気づく。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 「このお話はどこが悲しいと思うのか」について一人ひとり考えを述べる。	・学習の初めにもった読後感を振り返る。
2 一つひとつの考えに対して質問、応答をする。	・友達の考えを聴いて、自分の考えや感じたことと比べる。
3 それぞれの考えの根拠を確かめ合う。	

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

- ・話し合いの中で、どの言葉が学習材としてふさわしかったのか。(どの言葉に立ち止まらせることがよかったのか)